

くまもと有機エレクトロニクス連携エリア 報告会で成果など紹介

キユーラックス安達社長の講演



【熊本】くまもと有機エレクトロニクス連携協議会とくまもと有機エレクトロニクス産業促進協議会は、熊本市中央区のKKRホテル熊本で「くまもと有機エレクトロニクス連携エリア報告会」を開催。全国から145人の参加があった。

有機エレクトロニクス産業の創出を目指す地域イノベーション戦略推進地域「くまもと有機エレクトロニクス連携エリア」は、11～20年度の取り組みの中間となる5年目に当たり、大学などの研究者と地域企業との交流促進を図るため、報告会

を開催した。これまでの取り組みや創出された成果品を紹介、現在の最先端の技術動向や最先端技術のビジネス展開のヒントなどを提供した。

講演は、Kyulux（キユーラックス）の安達淳治社長から「有機エレクトロニクスビジネスの展望」と、文部科学省から「文部科学省における産学連携施策の展望について」。Kyuluxは15年4月設立の九大発ベンチャー企業で、九州大学で開発された次世代有機EL材料（熱活性型遅延蛍光材料TADF）の実用化を目指している。

くまもと有機エレクトロニクス連携エリアの成果の報告では、くまもと産業支援財団の河北隆生

プロジェクトディレクターが「地域イノベーション戦略支援プログラムの事業概要」として材料、製造・評価装置、デバイス応用の展開や今後の展開などを解説した。

研究開発および成果では熊本大学の伊原博隆教授、崇城大学の八田泰三教授、九大最先端有機光エレクトロニクス研究センター（OPERA）の安達千波矢センター長、熊本県産業技術センター&くまもと有機薄膜技術高度化支援センター（PHOENICS）が報告。このほか、人材育成プログラムや産学連携での成果として、くまもと産業支援財団、サクシス（熊本県甲佐町）、ヒューマン（同合志市）が登壇した。